

陽春新しき

(昭和六十一年度寮歌)

原沢辰明君 作歌

山森聡君 作曲

一

陽春新しき希望満つ
恵迪寮に若き男子等が
野心も赤き夕手稲
嗚呼力もて進まんか

二

盛夏短かくてストームに
太鼓音闇に消えるかな
朝の白露に寮歌の声
嗚呼轟くかこの石狩平野

三

夕暮風の涼しさに
楡の悲しみ知れるかな
雁より暮れる原始林
嗚呼我が憂ひすずろかな

四

北溟粉雪に荒ぶれど
詩を忘却れぬ若人が
理想の存在求めつつ
嗚呼その自治寮創造くかな

五

淡き憧憬に焦れ来る
拙き言葉操りて
胸の内を打ち明けし
嗚呼この青春も早や行かん

六

宴の酔狂も静寂まりて
沈黙の彼方微かなる
郭公の啼声の清らかさ
嗚呼この初夏も過ぐるかな

七

北斗煌く晩秋夜
望月写す支笏湖の波
明日の旅路を思いつつ
嗚呼涙して更くる夜

八

疎々たる原始林に我一人
白雪舞う木立烈風強く
冷徹たき真理索めんと
嗚呼声もなく迪を行く

九

春も巡れる四度に
若き明日の祝極と
南風頻りに頬を打つ
嗚呼この別離永却からず